

皆さま、こんにちは。
府中教会、アンドレアです。

「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と本日の「福音」には記されています。神の国を宣言し、神の国に入るようにと呼びかけるのです。言い換えれば、今年の毎日曜日に読まれる福音書のひとつひとつの物語が私たちに伝えようとしているのは、今と言う時に、私たちの理解に応じてイエスのメッセージを受け入れる「時」が満ちるのだと言うことです。

「時が満ちた。」イエスの最初の言葉ですが、現在の瞬間は、まさに神が私たちの救いのために定めた瞬間です。このように、現在を大切にするのは、精神的健康にとってどうしても必要です。キリスト教という宗教は、悪を忘れたり善を夢見たりする麻薬を考えてくれません。現在という瞬間をとことん生きるようにと呼びかけます。福音書のどの箇所にも、神の約束が含まれています。「時は満ちた」ということを理解するならば、福音はそれを読む私に実現するようにと主が望んでおられるのです。それが福音なのです。

それでは、「時は満ち、私についてきなさい」。本日において、イエスに従い、私たちがイエスの弟子であるということは何を意味しますか。さらに、私たちは「人間をとる漁師」になることができますか。と言うのは、皆さん、イエスの弟子たちとして私たちの友人にイエスのことを紹介するのは必要だと思いませんか。

